

うれしの



Contents

新年のご挨拶	2	放射線治療装置更新のご案内	9
新任のごあいさつ	3	クリスマスコンサート	10
綱田内科系第一部長が厚生労働大臣表彰を受けました	3	20年・30年永年勤続表彰式	11
第78回国立病院総合医学会参加報告	4	71回生 誓いの式	13
院内災害訓練を開催して	8	外来担当医表	14

基本理念

「命と心をつなぐ医療」

「命と心をつなぐ医療」の実践には、患者の身体的苦痛を取り除くだけでなく、精神的苦痛も理解し和らげる努力が重要である。

また、患者や家族と良好な信頼関係を構築し、安心して治療を受けられる環境づくりが大切である。



新年のご挨拶

嬉野医療センター院長 力武 一久

謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年も、患者さま一人ひとりに安心と信頼をお届けする医療を提供し、地域社会に貢献していく所存です。

昨今、医療を取り巻く環境は大きな変化を遂げています。当院におきましても、この変化に柔軟に対応し、より良い医療の実現を目指してまいります。その中でも、特に注力しているのが医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進と経営のさらなる改善です。

① 医療DXの推進

デジタル技術を活用した診療支援システムの導入や、電子カルテの効率的な活用により、医療従事者の負担を軽減しながら、患者さまへのサービス向上を図ってまいります。特に本院の特徴でもある患者案内システムを更新し、誰もがスマートフォンで利用できるようにします。また、昨年11月に導入したロボット支援手術や本年1月最新機種で再稼働する放射線治療といった新たな技術にも積極的に取り組み、地域に根差した高度な医療を提供してまいります。

② 経営改善への取り組み

全国的に危機的な病院経営の中、持続可能な病院運営を実現するため、医療費の適正化や業務プロセスの効率化を進めるとともに、スタッフの働きやすい環境づくりにも注力してまいります。限られたリソースを最大限に活用し、患者さまにとってもスタッフにとってもより良い病院を目指して努力を続けます。

最後になりますが、本年も職員一同、誠心誠意、地域医療に取り組んでまいります。皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様にとりまして、健康で実り多い一年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



放射線科

撮影透視主任 鶴丸 貴大



- 性格 緊張しやすい
- 長所 忍耐力がある
- 好きなこと 睡眠
- 好きな食べ物 イタリアン
- 趣味 ドラマ鑑賞
- 特技 早歩き

一言コメント およそ20年間福岡県にいました。初めての転勤なのでかなり緊張していますが、早くなれるように頑張ります！



綱田内科系第一部長が 厚生労働大臣表彰を受けました

先般綱田部長が佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会委員として12年にわたり精勤された功績により、佐賀県庁にて令和6年度国民健康保険関係者功績厚生労働大臣表彰の伝達式を受けられました。

国民健康保険事業に対する功績が特に顕著であって他の模範と認められる国民健康保険関係役職員に対し、その功績を讃え労苦に報いるとともに、併せて国民健康保険事業の発展に寄与することを目的として厚生労働大臣表彰が行われています。



災害医療支援システム開発でベスト口演賞受賞のご報告

医療機器管理室 主任臨床工学技士 北村純一

この度、第78回国立病院総合医学会におきまして、「経時活動記録を共有するシステム開発～他施設・後発隊との円滑な情報共有を目指して～」というテーマで発表の機会をいただき、光栄にも2年連続で「ベスト口演賞」を受賞することができました。

本発表は、令和5年1月に発生した能登半島地震に際し、医療班派遣時に九州ブロック全体で活用できる活動記録ツールを新たに開発し、運用した経験を報告させていただいたものです。地震発生後の災害急性期には情報が錯綜し、刻々と変わる現地のニーズに対応するため、災害拠点病院のスタッフであっても必要な対応に戸惑う場面が見られました。また、今回の災害では災害拠点病院以外の施設にも派遣要請がなされ、災害対応のノウハウがない施設から「どのように活動すべきか」「必要な資機材は何か」といった不安の声が寄せられていました。

こうした課題に対応すべく、活動状況を共有するシステムを作成し、医療班の活動状況をリアルタイムで後発隊や他施設と共有することで支援が可能になるのではないかと考え、運用に至りました。このシステムに対して、座長の先生から「DMATや日赤、県市町村など、さまざまな団体が閲覧でき、かつ無料で作成された点が非常に優れている」とのお褒めの言葉も頂戴しました。

学会発表にあたり、日頃から支えていただいている病院および同部署のスタッフの皆様には、多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。皆様のご支援のおかげで、このような栄誉ある賞を受賞することができました。改めまして、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



ベストポスター賞を受賞して

4 西救命 副看護師長 大宅 安代

この度、国立病院総合医学会においてベストポスター賞を受賞しましたので、報告致します。R5年度に看護部リスクマネジメント委員会で取り組んだ「内服与薬の安全な実施に向けての薬歴管理システムの導入」について発表を行いました。

薬歴管理システム（以下システムと略す）の導入に取り組んだきっかけは、R4年度のインシデント内容で、薬剤関連が全体の1/3を占めていたからです。その中でも過剰・過少投与、無投薬の報告件数が増加していました。発生要因として、処方箋の転記ミスや医師の指示忘れであることが分かりました。そこで、内服薬を正しく与薬できることを目指し、電子カルテ上のシステムを活用することにしました。看護部リスクマネジメント委員会で、与薬業務の実際を確認し、システムを導入するメリットやデメリットについて意見交換を重ねました。この取り組みは医師の協力なくしては、システム導入が難しいことが大きな課題でした。そのため、医師や薬剤師の方と話し合う機会を設け、協力が得られるよう調整しました。さらにシステムを効果的に活用できるように、電子カルテについて情報



管理室と検討を重ねました。多職種協働で手順書の作成と見直しを繰り返すことで協力体制も整い、全部署で活用することができました。その結果、処方箋への転記作業は減少し、システムが医師・薬剤師と看護師の共通ツールとして活用されるようになり、インシデント件数に変化が表れてきています。

今回、初めてポスター作成と学会発表を行いました。副院長や統括診療部長、薬剤師、看護師長さん方の支援、アドバイスをいただき、ポスターを仕上げることができました。また、自部署のスタッフの皆さんには快くご協力いただき、心より感謝しています。皆様のご支援のおかげでベストポスター賞を受賞でき、本当に嬉しかったです。今後もシステムを活用した安全な内服与薬について、意見交換をしながら進めてまいります。

ベストポスター賞を受賞して

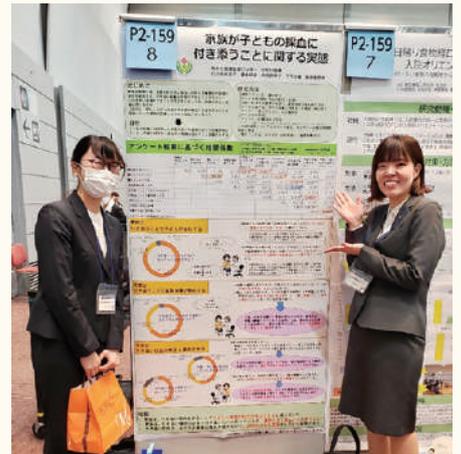
5 西病棟小児科 看護師 大嶋祐美子 楠本桃子

この度、国立病院総合医学会においてベストポスター賞を受賞しましたので報告いたします。

今回、私たちは「家族が子どもの採血に付き添うことに対する思い」という演題で発表しました。子どもにとって痛みを伴う処置は精神的苦痛が大きいため、小児科病棟では苦痛を軽減する看護や、子どもが安心する環境作りが課題となります。その中で、家族が採血時に子どもに付き添いたいという思いの反面、処置を受ける子どもの姿や啼泣する姿を

目にすることで、精神的負担をもたらしていないのか、と考えました。そこで、子どもの採血に付き添った家族が感じたことや思いを明らかにし、処置時の家族看護に活かすことを目的に、採血時に付き添った家族を対象にアンケート調査を実施しました。アンケート結果より「付き添うことで子どもが安心する・家族自身も安心する」「採血時子どもの傍にいたい」と感じている家族が多いことが分かりました。また、家族が、付き添うか否か選択できる環境にすることを望む意見もありました。今回の研究で明らかになったことを受けて、今後は子どもの発達段階に応じた関わりや、子どもとその家族に寄り添った個別性のある看護を提供できるように励みたいと思います。

学会発表は初めてということもあり、とても緊張しました。看護研究、ポスター作成を進める中で、スタッフの皆様のご協力とご支援をいただいたお陰で、無事に発表できたと考えております。ありがとうございました。



ベスト口演賞を受賞しました(^^)♪

6 西病棟 副看護師長 本田杏奈

第78回国立病院総合医学会において「看護部のリクルート活動につなげるためのホームページ活用調査」を発表し、『ベスト口演賞』を受賞しましたので報告させていただきます。

副看護師長研究会経営チームは、人材確保をテーマに研究を行いました。きっかけは、病院のホームページ(以下HP)が学生の就職活動に利用されているのか、広報の内容として必要な情報となっているのかと疑問を持ったからです。そこで、新たなリクルート活動の示唆を得ることを目的に、就職の決め手となった重要な事項とHPの活用状況について看護師を対象に調査しました。結果、就職する病院を決定する上で「看護部の雰囲気が良い」ことが重要事項であることが明らかとなりました。一方で、半数以上の看護師が入職前後

でイメージが変化していることもわかりました。これは、看護部の雰囲気を既存のHPでは情報が不十分であり、内容や発信の工夫が必要であることが示唆されたと考えました。ITを活用した広報活動に拡大すること、自宅近くの病院を選んでいる傾向もあることから、病院周辺の地域で開催される就職説明会への参加と病院見学・看護体験を拡充する足掛かりを得ました。今回の研究結果を活かし、病院の雰囲気が正確に伝わるSNSを活用した発信を現在は行っています。

今回の活動では、看護部の魅力をどのように伝えていけばいいのか、副看護師長としてメンバーで悩みながら知恵を寄せ合い、今回の発表にまで至りました。メンバー全員の努力が実を結び『ベスト口演賞』につながったことをとても嬉しく思います。また、発表ではとても緊張しましたが、発表に頷かれている方もあり研究内容に共感を示してくださっている事に喜びを感じながら発表を終えることが出来ました。

副看護師長研究会のメンバーをはじめ、研究調査にご協力いただいた全ての看護スタッフに感謝致します。



ベストポスター賞を受賞して

2年次研修医 池田 瑛

この度、国立病院総合医学会にてベストポスター賞を受賞しましたので報告します。今回、私は下部消化管疾患のセッションで【特異な食習慣を背景とした食餌性イレウスを契機に進行下行結腸癌の診断に至った一例】というテーマで発表しました。

この症例は、梅干しの種子を毎日1個ずつ丸飲みするという食習慣をもつ患者が食餌性イレウスを引き起こし、それを契機に下行結腸癌が見つかった衝撃的なもので、特に画像所見が印象的でした。発表では、これらの画像をどのように効果的に配置するかが重要なポイントとなり、消化器内科の先生方からその配置方法について具体的な指導を受けました。このおかげでポスターは視覚的にわかりやすく、内容がスムーズに伝わるものとなり、発表当日はポスター前に人だかりができており、達成感を得ました。

また、準備の過程では、外部研修中であったため、スムーズに作業を進めることができない状況でしたが、同期や後輩の協力を得てポスターを完成させることができました。研修先から戻るたびにポスター内容を確認し、修正を重ねることで発表を迎えることができ、特に同期のサポートが大きな支えとなりました。学会での発表は私にとって初めての経験でしたが、多くの医師の発表を聞いたり、質問を受けたりする中で学問的な視点だけでなく、臨床的な視野も広がったと感じています。ポスター賞を受賞したことは非常に嬉しく、この経験を今後の医師としての成長に活かしていきたいと思います。

最後になりますが、今回の発表に関してご指導頂いた消化器内科の先生方をはじめとした多くの先生方や教育研修部の皆様、本当にありがとうございました。



ベストポスター賞を受賞して

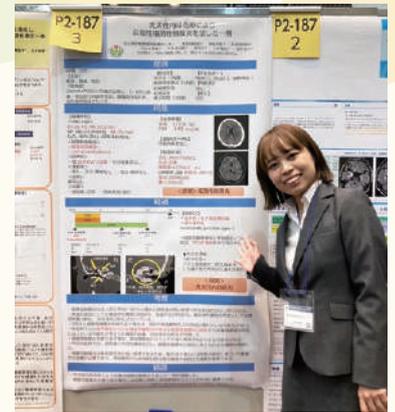
2年次研修医 山本優香

この度、第78回国立病院総合医学会においてベストポスター賞を受賞しましたので報告いたします。今回、私は神経・筋疾患のセッションで「先天性内耳奇形により反復性細菌性髄膜炎を呈した一例」というテーマで発表しました。

この症例は自分が当直帯で経験した一例で、非常に印象に残っている症例です。細菌性髄膜炎は極めて致死性が高く、迅速な加療が必要な疾患です。今回の症例では、治療と同時に原因精査を行い、内耳奇形による内耳とくも膜下腔の交通路が判明しました。致死性の高い細菌性髄膜炎を反復する場合には、再発予防は非常に大きな意味を持つと考えられます。今症例でも手術で原因となった交通路を閉鎖することができました。再発の原因に基づいた根本的な治療が重要であり、原因検索のためには詳細な既往歴の聴取や他科との連携が大切であると実感した症例でした。

また国立病院総合医学会での発表は去年に続き二度目になりますが、昨年に比べると幾分か緊張せずに発表できたように感じます。指導医の先生が抄読からポスター制作、予演まで何度も文章の推敲や確認をしてくださったおかげで、本番で自信を持って発表することができたと思います。研修医のうちから手厚いサポートの元で、こうして学会発表の機会を頂き、経験できるのは本当にありがたいことですし、今後に役立てたいと思います。

最後になりますが、今回の発表に関してお忙しい中ご指導して頂いた神経内科の先生方を始め、多くの先生方、教育研修部の皆様、本当にありがとうございました。



ベストポスター賞を受賞して

1年次研修医 香川拓美

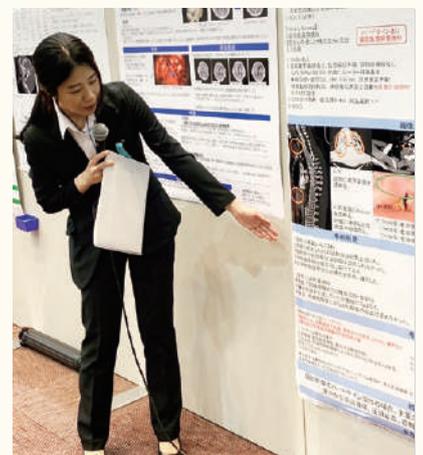
この度、国立病院総合医学会にてベストポスター賞を受賞したことをご報告いたします。今回私は、救急治療・集中治療のセッションにおいて、【ハードサインを認め、緊急手術を行った頸部刺創の1例】というテーマで発表いたしました。

頸部外傷において特に緊急度が高い病態は、気道確保の問題と大量出血です。特に、活動性出血や創部からのバブル、皮下気腫といった「ハードサイン」が確認された場合、主要血管や気管食道損傷を疑い、直視下でのneck exploration（頸部探索手術）が必要です。本症例では、頸部刺創患者におけるABC（気道、呼吸、循環）の確保とともに、ハードサインの有無を迅速に判断する重要性を学びました。

今回が初めてのポスター発表であり、多くのことに戸惑いながら準備を進めていきましたが、指導医の先生方が抄録作成からポスターのレイアウトに至るまで細かくご指導くださり、大変心強く感じました。当日は緊張の中、指導医の先生や研修医の先生方から励ましの言葉をいただき、最善を尽くすことができたと感じています。

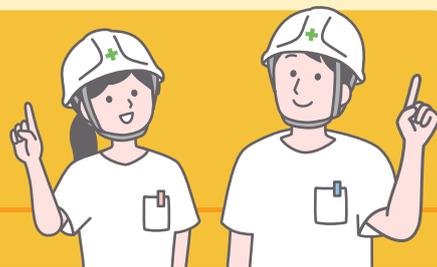
また、学会ではさまざまな先生方の発表を拝聴し、その内容だけでなく発表方法についても多くの学びを得ることができました。今後の発表に向けて、さらに努力を重ねていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の発表にご指導いただいた救急科の先生方をはじめ、教育研修部の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



令和6年度 院内災害訓練を開催して

診療録管理専門職 一番ヶ瀬智和



11月29日(金)に杵藤地区消防本部と合同で、令和6年度院内災害訓練を開催しました。訓練では佐賀平野北縁断層帯の地震に伴う家屋倒壊等により30名超の傷病者が発生したという想定で、患者の搬送と受け入れ、その後の診療が適切に実施できるかを確認しました。当日はあいにくの雨で、晴天時に予定していた活動はできませんでしたが、病院内では重症・中等症・軽症などトリアージ^{※1}の結果に応じてエリアを展開し、模擬傷病者の治療にあたりました。

DMAT 隊員養成研修では、CSCAという概念を繰り返し指導されます。それぞれ、C (Command & Control 指揮と統制)・S (Safety 安全確保)・C (Communication 情報伝達)・A (Assessment 評価)の頭文字からなり、有事の際に隊員はCSCAを念頭に置いた活動が求められます。今回の訓練では、所定の書式を用いて病院の被害状況や傷病者の受け入れ数、職員の出勤状況などの情報を体系的に収集しました。そこで得られた情報をもとに院内本部で方針の明確化を行うことで、指揮命令系統の確立と安全の確保、必要な情報の収集と伝達・評価という、CSCAを意識した活動ができました。また、CSCAの確立と同時に、EMIS (広域災害救急医療情報システム)に被害状況の入力も行い、院外への情報発信の訓練も併せて実施しました。

昨年1月に発生した能登半島地震では、当院からも医療班を派遣しました。医療班は被災した医療機関の診療支援に加え、避難所のスクリーニングや被災者に対する診療など、様々な活動に従事しました。今回の震災では、被災地までのアクセスの困難さだけでなく、被災者の大半が高齢者であること、被災地が冬季の北陸地方であることなど、これまで当院が活動した災害とは異なる側面も数多くありました。このような状況に対処するには、様々な状況を想定した訓練や研修への参加が必要です。今回、地震想定での訓練を行ったことで、当院が被災した状況下でどのように対応するかのシミュレーションになっただけでなく、当院から被災地に医療チームを派遣する際の参考にもなりました。

月並みな表現ですが、災害はいつ起こるか分かりません。来るべき災害に備えて、今後も定期的な訓練を実施するとともに、日々の準備に努めていきたいと考えています。

※1 災害発生時などに多数の傷病者が発生した場合に、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を定めること。(出典：東京都保健医療局)



放射線治療装置更新のご案内

放射線科 長岡慶繁

米国Varian社製のTrueBeamと呼ばれる装置で、高精度・高出力機であり従来の装置と比較して3次元原体照射治療（3D-CRT）、定位放射線治療、強度変調放射線治療（IMRT）において更に高精度な治療が対応可能となりました。また周辺機器に関しても多数備えており、様々な症例に対して有用です。



代表的な機能

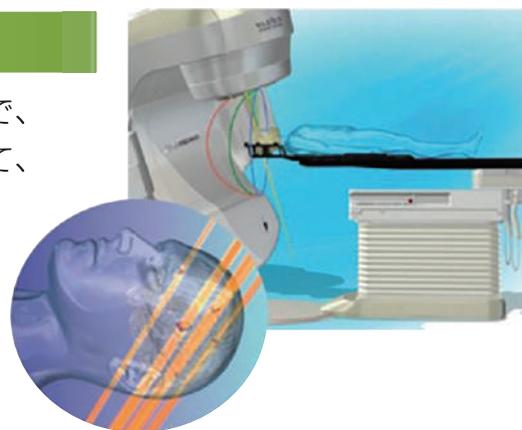
01 6軸カウチシステム（PerfectPitch）

従来の寝台では4方向（縦・横・高さ・水平回転）にて位置補正を行っていましたが、今回の寝台は6方向（4方向+縦回転・横回転）の位置補正ができ、より精度の高い放射線治療を行うことができます。

02 定位放射線治療（HyperArc）

小さな病変に対して、多方向から放射線を集中させる方法で、従来の放射線治療と比べ、1回あたりの放射線量を多くして、短期間で治療を終了させることができます。

またHyperArcと呼ばれるシステムでは、**患者位置決め画像取得**と**放射線照射**をプログラミング化することで、転移性脳腫瘍を初めとする定位放射線治療を短時間で行うことができます。



03 体表面モニタリングシステム（IDENTIFY）

治療中の患者体動をモニタリングできるシステムで、通常の放射線治療時以外にも左乳がんに対する息止め照射にも用います。光学式システムを用いているため、追加被ばくは発生しません。



2025年1月より臨床稼働開始です
よろしくお願いいたします

クリスマスコンサート

7 西病棟 川尻亮太

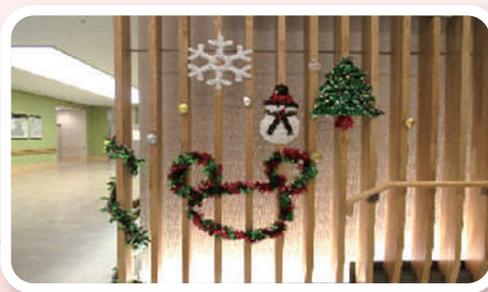
素敵なひととき

6年ぶりの院内クリスマスコンサートを、12月6日に開催することができました。少し早い開催でありましたが、患者さんやその家族にとって、素敵なひとときとなったのではないかと思います。ここ数年はコロナの影響でさまざまな集いが中止となっていました、「患者さんとその家族を癒したい」というスタッフからの強い思いで、コンサート開催が実現しました。

コンサート会場には、クリスマスの飾り付けと参加される方の誘導と見守りを行うスタッフがサンタ姿で出迎えました。ピアノ演奏から始まり、会場からは拍手が沸き起こり素敵な空気に包まれました。どの曲も心と身体をリラックスさせてくれる心地よい音色で会場全体が一気にクリスマスの雰囲気がいざなってくれました。中でもトロンボーンの迫力ある演奏には、テンポに誘われた手拍子で皆様との深い絆を感じる瞬間となりました。看護学生による合唱とハンドベルの演奏に、若さと初々しさが漂い患者さんや家族のみならず、職員も元気をもらいました。会が進むにつれて、観賞者は増えていきました。吹き抜けの会場に広がる1階フロアのみならず、階段と2階からコンサートを楽しんでいる方の姿がありました。そして最後は、糖尿病・内分泌内科の徳満医師によるジャグリングやコマ回しは、大道芸と言っても過言ではないほどの腕前でした。一つ一つの芸が終わるたびに拍手喝采がやまず、一体感が生まれていました。

コンサートが終わると、患者さんから「入院中にこんな素晴らしいコンサートに出会えて嬉しかった」「とても楽しめました」と多くの声をいただきました。久しぶりのコンサート開催に向けての準備には苦労もあり、無事に開催できるかと不安な気持ちになることもありました。しかし、今回のコンサートに参加された皆様からの喜びの声と笑顔を見て、次回も「頑張ろう」と思えました。なにより、参加される方のいい思い出となり、少しでも幸福を感じていただける“ひととき”になることを願うばかりです。

最後になりましたが、今回の開催にはさまざまな方のご協力があってこそ成し遂げられたと思っております。この場をお借りして、企画運営にご協力いただいた関係者の方、そしてボランティアで出演して下さった岡様、嬉野市民吹奏楽団の皆様、嬉野医療センター附属看護学校の学生の皆様、徳満医長に深く感謝申し上げます。



20年・30年 永年勤続表彰式

当院では今回、30年以上勤務者2名、20年以上勤務者18名の計20名の方々が表彰となり、力武院長より賞状・記念品が授与されました。



教員 剣持葉子

永年勤続表彰、ありがとうございます。国立病院機構に入職し、20年も経っていたことにびっくりしています。私はこれまで、看護師、教員、看護師長として多くの部署、病院で勤務をさせて頂きました。そこで一緒に力を合わせて仕事をさせて頂いた方々との出逢いは私の財産です。これからもよろしくお願ひします。

副看護師長 今村果奈代

子育てしながらの20年は、あっという間でした。皆さんに支えられて勤続できたことを忘れずに、もう少し頑張りたいと思います。

副看護師長 大浦咲季

この度は永年勤続表彰を頂きありがとうございます。

国立嬉野病院時代に看護学生として過ごし、NHO嬉野医療センターへ変わった平成16年に当院に入職しました。配属先が手術室という衝撃から看護師人生が始まり、つらい日々でしたが、気付けばこの20年の大半を手術室看護師として学ばせていただいています。アイランドナースとして離島医療も経験させていただきました。このような貴重な学びの機会を頂き看護師を続けることができているのも、家族をはじめ多くの方々に支えられてのことだと思ひます。これからも感謝の気持ちを忘れず、患者様をふくめ多くの出逢いを大切にして、プラス1の看護に努めていきたいと思ひます。

この度は永年勤続年数20年の表彰ありがとうございます。私は平成14年10月に臨時職員で採用を頂きました。その後非常勤看護師へ転任した後、常勤看護師として採用され現在に至ります。

入職当時は、自宅から近い大きな組織で働きたいというだけの安易な気持ちでしたが、多くの先輩方や多職種の方々と出会って、様々なことを教わり経験させて頂き成長することができました。急性期病棟をはじめ、救急外来や集中治療室なども勤務することができて近隣施設では関わるできないような患者様の看護に携えたことや、多くの患者様から感謝して頂けたことは本当に私の財産です。また、プライベートでも、院内で最愛の妻と出会い、4人の子宝にも恵まれました。家族との別れや自宅の購入など、この20年間は様々なことがあったと思い出します。

日々、身体のおちこちが痛む年齢となってきましたが、今後も自分の力量と心身のバランスをしっかりと考慮して、次は永年勤続勤務30年を目標に、嬉野医療センター看護師として従事していければと思っています。都合により表彰式には出席できずに申し訳ありません。この度は表彰頂き、誠にありがとうございました。

たくさんの方々に支えてもらい、患者様からたくさんのことを学ばせて頂き、たくさんのお出会いがあり、あっという間に20年がたちました。まだまだ学ぶことばかりです。これからも嬉野医療センターで自分ができることを探しながら看護していきたいと思っています。

この度は、永続勤務表彰をいただきありがとうございます。正直20年も看護師として働いていることに驚いています。

看護とは正解のない生涯学習の一部で、「看護はセンス」であり永遠の課題だと改めて思っています。今の自分があるのは、今まで出会った上司・先輩・同期・後輩・先生方、そして患者さんのおかげです。たくさんの方々と出会い多くのことを学び成長出来ました。ありがとうございます。そして20年も元気で働けているのは家族のサポートのおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも人との出会いを大切に、感謝の気持ちを忘れず信念を貫き通して微力ながら頑張りたいと思います。

このたび、20年の永年勤続にあたり表彰していただき、誠にありがとうございます。

国立病院機構に変わる年に、私は看護師としてのスタートを熊本医療センターで迎えました。救急搬送が絶えない急性期病院の環境の中で、とにかく周りの先輩看護師についていくのに必死の毎日だったのを覚えています。

10年目の年に、地元に近い嬉野医療センターに異動となりました。

1年目から17年間、主に脳神経外科・神経内科の病棟に勤務し、脳卒中や神経難病の発症を契機に、ADL自立度が低下し、身体的・精神的・社会的障害を抱える患者の看護を通して、特に摂食嚥下や栄養管理の分野は、研修や学会に継続的に参加させていただき学びを深めることが出来ました。また様々な不安を抱える家族に寄り添い、患者・家族の意向を確認しながら退院支援を行い、退院時に患者・家族の笑顔を見ることは何よりも嬉しく感じる事ができました。

私たち看護師が働く病院の環境が大きく変動していく中、自分も戸惑うことが多い日々ですが、若い世代の看護師が看護の楽しみを少しでも感じて仕事ができるように、サポートしていくことができればと思っています。改めて、今まで一緒に働いてきたたくさんのスタッフの方々に感謝し、お礼申し上げます。

看護師 山下裕美

愛知県で一般社員を経験し「人を相手にする、現場の仕事に就きたい」と思い、看護師の職を選んでから30年以上、そのほとんどを嬉野医療センターで過ごすことになるとは、人生というのは不思議なものです。

失敗も多い私が20年間勤めてこられたのは先輩方のご指導と同僚後輩たちの忍耐のおかげとっております。この御恩を少しでも返せるように、これからも勤めてまいりたいとっております。

今回は本当にありがとうございました

71回生 誓いの式

1年生 山崎富貴

令和6年11月8日(金)に、病院職員の皆様や家族、そして在校生に見守られながら『令和6年度誓いの式』を挙行することができました。

誓いの式では、学生ひとり一人が思い描く看護師像やナイチンゲール誓詞に込められた意味を考え、クラス全員の思いを込めた「誓いの詞」を掲げることができました。

看護を目指す上で様々な困難や課題に直面することもあります。クラスの仲間たちと励まし、高めあいながら乗り越えていけるように努力していきます。



嬉野医療センター 外来診療担当医表

▶▶ 紹介状・予約が必要です ◀◀

2024. 9. 1 ~

区分	月	火	水	木	金
総合診療科	午前 黒木	永田	黒木		黒木 永田
呼吸器内科	午前 佐々木 中富	小宮 高尾	佐々木(再診) 中富	佐々木 小宮	中富 小宮
消化器内科	午前 田中(消化管) 行元(消化管) 叶(肝臓・胆嚢・膵臓)	綱田(消化管) 有尾(肝臓) 日野(肝臓・胆嚢・膵臓) 榎藤(消化管)	日野(肝臓・胆嚢・膵臓) 大山(消化管) 朝長(消化管)	綱田(消化管) 有尾(肝臓) 行元(消化管) 朝長(消化管)	田中(消化管) 大山(消化管) 叶(肝臓・胆嚢・膵臓)
循環器内科	午前 合力 田栗	下村 井上	合力 不整脈外来(再診) 新里	下村 ペースメーカー外来 乗田・山口	井上
心臓血管外科	午前	高松 古賀			高松 古賀
糖尿病内分泌内科	午前 井上(新患)	徳満(再診)	徳満(新患) 井上(再診)	徳満(再診)	井上(再診)
リウマチ科・内科	午前 庄村	西畑	荒武	荒武	庄村(再診) 西畑
神経内科	午前 小杉(新患) 平原(再診)		小杉 平原		小杉(再診) 堤(新患)
腎臓内科	午前 野中	広松 小野	末永 広松	野中 末永	野中(再診)
小児科	午前 中村・西野 初診：各月当番医	森田 初診：各月当番医	吉浦 初診：各月当番医	一ノ瀬 初診：各月当番医	浦島 初診：各月当番医
	午後 小児腎臓外来 (第2・4) 小児アレルギー外来	乳児健診 予防接種外来 小児アレルギー外来	小児循環器外来	小児アレルギー外来 小児神経外来	小児代謝・内分泌外来 小児アレルギー外来
呼吸器・乳腺外科	午前 近藤 織方	近藤 織方			
	午後 近藤 織方				
消化器外科	午前		黨 内田	丸山	鄭
整形外科	午前 村田 中山 山口	小河 松尾 弦本	古市 村田 山口	小河 中山 弦本	古市 村田 松尾
脳神経外科	午前 土持	宮園		宮園 岸川(再診)	土持
皮膚科	午前 柳瀬 西島	柳瀬 西島	柳瀬 西島	柳瀬 西島	柳瀬 西島
形成外科	午前 猪狩(非常勤)				
泌尿器科	午前 林田(新患) 上田(再診)	林田(再診) 上田(新患)		林田(再診) 上田(新患)	林田(新患) 上田(再診)
	午後 上田(再診)			林田(再診)	
婦人科	午前 一瀬	中島		久本	本石
産科	午前 久本	本石	助産師外来(9時~16時)	本石	久本
	午後 母乳外来(14時~16時)	助産師外来(14時~16時)		母乳外来(14時~16時)	助産師外来(14時~16時)
眼科	午前 岩切		岩切		岩切
	午後 岩切(再診)		岩切(再診)		岩切(再診)
耳鼻咽喉科 (午後13:00~16:00)	午前 吉見 二宮	吉見 二宮	耳鼻科外来(新患)	吉見 二宮	吉見 二宮
	午後		吉見 二宮		
放射線科	午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療
術前診察		午前診療			午前診療
緩和ケア	午前診療	午前診療	午前診療	午前診療	午前診療
ペインクリニック	午前 香月 北村	香月 北村			香月 北村
入院評価		午後診療		午後診療	
救急科 (8:30~17:15)	藤原 山田	藤原 山田	藤原 山田	藤原 山田	藤原 山田
歯科口腔外科	午前 井原 森	井原 森	井原 森	井原 森	井原 森
	午後	井原 森			井原 森